

各常任委員会 行政視察報告

市政の課題や先進事例の調査を行うため、他自治体への行政視察を実施しました。以下のとおり研修内容を報告します。

総務常任委員会

10月7日(月) 兵庫県三木市

「みきで愛(出会い)サポートセンターについて」

縁結び事業開始の背景は2005年の合計特殊出生率1.07と県内最低水準となったこと。平均年齢69歳のサポーター部会は結婚相談、お見合い相手の紹介等を実施し、2024年3月現在、成婚者は132組。縁結びの三木」を掲げ積極的に取り組まれていました。

委員の所見

事業は単なる婚活支援ではなく、サポーターと相談者が地域で生きがいを持つ社会福祉の役割を担っていることが理解できました。本市のアンケートでは、パートナーが見つからないことに40%が不安に感じているとのこと。成婚1点に完結させない寄り添う取り組みが求められています。

10月8日(火) 大阪府泉佐野市 「ふるさと納税の取り組みについて」

総務省が制度導入の2008年度から財政健全化を進める過程で

取り組みを始め、2023年度寄附額は約175億円で全国3位。使い道として、社会問題解決の支援に繋ぐプロジェクト指定の寄附も推進。「ふるさと納税のまち」として再び寄附受入額No1を目指しています。

委員の所見

各自自治体があるさと納税制度へ参加していく中、常に先頭に立って様々な取り組みを行っています。「アイデア力」で行政、市民一丸となって挑戦し続ける泉佐野市。説明、受入の姿勢も印象的でした。得られた貴重なアドバース等は今後の取り組みへ活かしていきます。



厚生常任委員会

10月30日(水) 北海道美唄市

「病児保育」にこころムえがお」について」

子育て世帯の移住・定住施策や、働きながら安心して子育てができる環境整備の一環として、平成29年に市立美唄病院内に「美唄市病児保育室」にこころムえがお」を開設しました。保育室は2室あり、通常2名まで利用できます。

委員の所見

病児保育室が病院内に設置してあり、お子様の急な体調変化にも対応できるので、保護者の方も安心して預けられると思います。利用する保護者の方の多くは、公立保育園の保育士とのことでした。なかなか仕事を休めない方のニーズにもマッチしていると感じました。

10月31日(木) 北海道旭川市 「旭川市動物愛護基金」について」

旭川市動物愛護基金は、動物愛護・管理に関する事業の財源とするため、寄付金の受け皿として令和3年2月に設置されました。当基金は、主に動物愛護センター

運営、猫の不妊措置、動物愛護の普及啓発に関する経費に充てられます。

委員の所見

猫の多頭飼育崩壊の原因の一つに、飼い主が介護施設に入所し、ペットのお世話をする人が周りにいなくなってしまうケースがあるという話を聞きました。当センターは、今の時代により必要とされる施設であると思うとともに、動物を飼育する責任を痛感しました。



経済文教常任委員会

10月29日(火)

一般社団法人
奈義しごとえん

「くまのこども事業」について」

奈義町では子育てをしている母親やシルバー・シニア世代の声に応え、短時間のワークシェアリング事業を行っている。コンビニに行くように気軽にでき、色々な種類の仕事があり、自由に選べるようになっていきます。全国的に注目されている取り組みとなっています。

委員の所見

当時の総理大臣も視察に訪れる視察地です。当事業は、奈義町の合計特殊出生率は2.95を支える大切な事業の一つであり、特に雇用されるのではなく、業務委託契約を結ぶ点に注目しました。佐野市においても導入の調査・研究に活かせると思いました。

10月30日(水) 岡山県玉野市

「産業創出の取り組みについて」

玉野市はライフスタイルや働き方の変化に合わせたワーケーションツアーを実施しています。「遊んでよし、働いてよし、暮らしてよし」を3つのポイントとして「ここ



しかできない体験」と「地域と都市の新しい関係性」の構築を目指し、取り組みを進めています。

委員の所見

最近「コト消費・トキ消費」という言葉を耳にします。立地や特徴を綿密に分析しており、デメリットさえうまく活用している点に注目しました。行きたい・住んでみたい・なるような取り組みの考え方や組み立て方は、佐野市でも参考にできると思いました。

建設常任委員会

10月7日(月) 滋賀県東近江市

「自動運転サービス」について」

中山間地域における地域の足の確保という課題解決に向けた手段の一つとして道の駅奥永源寺溪流の里を拠点とした自動運転サービスの里を拠点とした自動運転サービスを構築し、将来的にはコミュニティバスと接続することによる高齢者の移動の負担軽減などを目標として、安定的な事業継続に向けた運営を行っています。

委員の所見

今後、さらに高齢化が進行する中で、自動車等が運転できない高齢者の増加が見込まれ、交通弱者の生活を支える地域に密着した公共交通の需要が高まることが予想されていることから、本市においても調査や研究を行うこと、必要を感じました。

10月8日(火) 愛知県豊田市

「水道のDXによるインフラ整備」について」

豊田市では、水道管のインフラ老朽化や調査の人手不足などが課題となる中で、人工衛星とAI(人工知能)を活用した効率的な維持管

理を実現する取り組みとして、劣化予測診断や漏水エリア特定診断、漏水リスク調査などの「水道管の健康診断」についての説明を受けました。

委員の所見

デジタルトランスフォーメーションを活用して、現在の調査方法と比べて飛躍的に漏水箇所を特定できることは先進事例であると思います。本市においても人工衛星とAIを活用した水道管の維持管理を実現するため、導入に向けての調査・研究を行うことが必要であると思いました。

